「登校しぶり」をみんなで考えよう　体験記

【Dさんの保護者の方】

1．登校をしぶり出したころの経緯（子どもの声や態度も含む）

思い返せば年少のころから、幼稚園で吐くほど泣いていました。ずっといやがっていました。小学校に上がってからも一年生の入学時から「行くのイヤ」といっていました。「図工がイヤ」と言っていたので担任の先生と相談して配慮しながら何とかいけるようになりました。一学期にはチックが出てきましたが夏休みになったら出なくなりました。学校に行かなくなったから治ったんだなと思いました。低学年のころは年に２～３回休みましたが、次の日には登校できていました。学校に行くのがしんどいと言われたときには信号まで送っていったら登校できたときもありました。家で「ここまでお母さんがついて行くよ」と約束したら登校できていました。

高学年の 3 学期になって教室への不安から学校への登校が減り始め、ほぼ登校できなくなりました。

2．登校をしぶり出したころの思い（親の思い）

無理強いはしたくなかったです。なんとか約束をして登校してくれていたからそこまでしんどくなかったです。そのとき中学生のお姉ちゃんも同時に登校しぶりになったのでそっちの方がとてもしんどかったです。どう対処したらよいか分からなかったのがしんどかったです。だから絶対に行きなさいとはいえない状況でした。本人も行った方が良いとわかっていたのですが、ちょっと遅刻してなら行けると本人が言ってきたのでホッとしていました。

お姉ちゃんには無理やり学校に連れて行っていましたが、途中から動かなくなってしまいました。カウンセリングを受けて、無理して学校に行かせることで行けなくなる期間が長くなると教えられて、無理させない方が良いと思いました。お姉ちゃんのこともそうですが、ありのままを受け入れようとしていたので本人の時も同じようにしようと思いました。でも「行かなくてよい」とはこちらからは言わないようにしました。

3．登校しぶりを克服できた、もしくは良い方向に向かった理由（気を付けたことや意識したこと）

お姉ちゃんのときにはお姉ちゃん自身がカウンセリングを受けるために週１回の登校だったので、いっしょに歩いて登校しました。その時間で親子のコミュニケーションをとることができたと思います。普段ならあまり話さないだろうことや言葉にできない想いを歩きながら感じたり、聞いたりできたことが良かったと思います。

この子に関しても、登校するかしないかを自己決定させています。登校すると決めて校門の前まで来ても門をくぐることができないときもありました。その時はせっかくだからだれか先生と会っていこうと登校した証を作るようにしました。学校まで来た時も授業に参加するかどうかで迷った時もありました。そのときは「迷えるくらい心に余裕があるんだな」と思えるようになりました。

この子は「ぼくはお母さんの宝物だ」と言うくらい、自分のことを好いてくれています。私も「好きだよ」という言葉をいったり、大好きだという雰囲気をだしたりしています。家が安心できる安全基地にしようと思っていました。

4．登校しぶりで困っている保護者へのメッセージ（元気がでる言葉）

今も少し困っていることが父親との考え方の違いです。父親がDに厳しく言ってしまうことがあり、今まで積み上げてきたものがまた一からになってしまったという気持ちになることがあります。両親で考え方や意見をすり合わせて取り組んだ方が良いと思います。学校での作戦会議にも両親できたらいいなと思っています。

長いトンネルみたいだなと思いますが、お姉ちゃんもあるとき突然抜けることができました。だから、いつまでもこの状態ではないと思ってほしいです。

＜校長のつぶやき＞

お姉ちゃんでの経験で子どものありのままを受け入れることができた保護者の方がすごいと思います。学校に行かなくても本人が決めたのだからと思えるには、相当の開き直りが必要だったと思いますが、やりきられています。親の「どーん」とした態度が子どもにとっては安心感になるのだと思います。まさに家が安全基地になっているのでしょうね。